

第55回ジャパンゴルフフェア2021



女子プロからのレポート&オンラインセミナー報告

本誌12〜13頁で、「ジャパンゴルフフェア2021」について取り上げたが、今回、レギュラーアワードでも活躍した大谷奈千代プロから会場の様子について、女子プロの目線でコメントをいただいた。そちらと合わせて、オンラインで開催されたセミナーについても報告したい。

●大谷奈千代プロ プロフィール
1984年6月22日生まれ。兵庫県神戸市出身。滝川第二高校時代はゴルフ部に所属。2005年にプロ入りし、ステップ・アップ・ツアー2勝。2008年にはステップアップの賞金ランキング1



大谷奈千代プロ

位に。2011年の日本女子オープンでは4位に入り、同年にレギュラーツアー初シード(45位)を獲得。2018年に現役引退後、同年の全米女子オープンでは葭葉ルミのキャディとして出場。その他、トーナメント時に東浩子や竹谷佳孝のキャディに付いた経験も。また、同じ高校出身の古江彩佳のプロ保証人を務めている。その他、フードマイスターやアスリート栄養食インストラクター資格所有。

現在は、ヒルズゴルフアカデミー(東京都港区)、ハイランドセンター(東京都杉並区)でレッスンに従事する傍ら、PGAティーチングプロA級受講中。JLPGA Aトーナメントプロフェッショナル、TPILV1、バイオサイニングLV1。

ゴルフのすべてを見る、触れる。
第55回ジャパンゴルフフェア2021、大谷奈千代

世界的な新型コロナウイルス感染症拡大によりゴルフ業界でもトーナメントの中止やプレーの制限、またプレースタイルへの変化があった2020年を経て、『密にな

りにくいスポーツ』として人気が拡大しつつあるゴルフ業界の展示会へ行ってきました！

1年越しの開催となった2021年はゴルフファンや業界人：特に私にとっては一度は行ってみたい！と思っていた、待ちに待ったフェア開催です。

参加に当たってはどの方も無料なのですが、事前登録が必要です。感染予防のため、場内の収容可能人数が最大5000人に制限されており、すべての来場者を事前登録時にデータで送られるQRコードで管理されるといふシステム。入退場時にスタッフさんが端末機に読み込ませることで、常に5000人を超えないようリアルタイムで監視できる仕組みとなっていました。

そして、今年の出展社数は前回(2019年)の219社から117社、ブース数は456コマから257コマに大きく減少しました。取材当日は13日の土曜日で生憎の雨でしたが、一般来場者数は3日間の中で1番集客の多い3322人。電車でのパシフィコ横浜へのアクセスでは、みなとみらいから1Fを通ると雨にぬれず、交

通はとても便利です。

しかし、一般来客・ビジネス関係者・報道関係者、すべての合計数は2万1793人と例年のおよそ3分の1となりました。来場者数の多くを占めたのはビジネス関係者の1万1181人で業界人の多さがうかがえます。

コロナの影響で遠方など、公共交通機関機関を使いなかなか足を運ぶことができないという点を、それぞれがオンライン開催を行うことで問題を解決し、ある程度自宅でも楽しむことができました。

日本ゴルフ協会 (JGA)

ルーツを辿ると日本におけるゴルフ団体組織は公益財団法人日本ゴルフ協会 (JGA) から始まります。1924年に神戸・根岸・東京・鳴尾・舞子・程ヶ谷・甲南の全国7倶楽部の代表により創設された：というお話は、月刊ゴルフマネジメントで連載されている大塚和徳先生のゴルフ史をお読みいただくとして、近年ではガレス・ジョーンズ率いる日本アマチュアゴルフを代表するナショナルチームの活躍が目覚ましく、畑岡奈紗プロをはじめ世界で戦える若い

選手をたくさん輩出しています。実際、ナショナルチームの一員になることは大変名誉なことなので、メンバー入りを目標に競技へ参加し、日々のトレーニングに精を出しているジュニアゴルファーはたくさんいます。

そして、ジュニアゴルファーを支える家族の悩みも尽きません。個人的にはガレスコーチの指導への取り組みや、選手との活動写真など資料の展示やオンラインセミナーの開催などで競技レベルの底上げを図るべく、ガレスコーチのリアルな声を聞いてみたいです。

日本プロゴルフ協会

日本ゴルフ協会の次に出来たのが公益社団法人日本プロゴルフ協会 (PGA) です。1957年以来、PGAトーナメントプレーヤーの資格認定やPGAティーチングプロの資格認定を行なってきましたが、2022年までに現行のPGA資格認定プロテストを廃止するという大きな計画を発表しました。現在は私もティーチング資格認定を受講中 (A級) です。この制度変更により、今後はテクニクのみならず、ゴルフの専門知



日本女子プロゴルフ協会

識を深めたスペシャリストが誕生します。

PGAティーチングの講義ではリテラシーといったSNSなどの情報に対する取り扱いについても学んでいるので、情報社会にマッチしたより良いゴルフ業界への提案ができそうです。

日本女子プロゴルフ協会

一般社団法人日本女子プロゴルフ協会 (JLPGA) では、2019年からクオリファイイングトーナメントへ出場するための制度が変更されました。誰でも参加可能だったTPD非会員登録制度を排除し、トーナメントプロフェッショナルかティーチングプロフェッショナルのどちらかでJLPGA

会員になる必要があります。こういった改革から昨年は、クオリファイングトーナメント出場を目指す多くの若い女子ゴルファー達がティーチング資格を受講する動きがありました。ティーチング資格はストレートにいけば3年で取れるので、プロテストをパスすることが出来なくても、同時に受講することでJLPGA会員となり、クオリファイングトーナメントからトーナメント出場へのチャンスに繋がるのです。

このティーチング資格は日本プロゴルフ協会が一括しているのですが、PGA会員とJLPGA会員が一緒に講義を受けています。両者のブースで、そういった繋がりのある深いゴルフ専門知識の内容や取り組みなどを展示できれば...と思います。さらにプロテスト制度を排除するPGAと、プロテスト制度を残したJLPGAのそれぞれの今後の展開について展示があれば、多くの来場者や関係者に活動をアピールできると思います。

そして、メイン展示はPGAとJLPGA共同のレッスンプラスです。ここでは、ティーチングプロフェッショナルの実力を感じま

した。

2020年にティーチングプロアワード最優秀賞を受賞した坂本博之プロのレッスンを取材

坂本プロはオリジナル練習商品「スイングラーニング19」を使用しながら言葉のオノマトペを駆使し、来場者にユーモアあるレッスンを行っておりました。このスイングラーニング19は首から下がるゴムの紐がミソです。手を離して構えると理想のアドレスを感じ取れます。ゴルフスイングで大切な、背骨の近くにあるスイング軸とゴルフクラブとの必要な距離感を保つサポートをしてくれる優れたものです。オリジナリティ溢れるレッスンでは坂本プロの日頃の研究が



坂本博之プロのレッスンを取材

うかがえました。

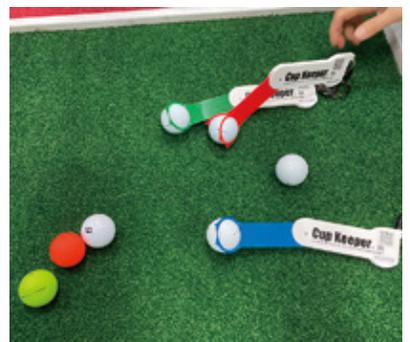
両団体共にティーチングプロフェッショナルのスペシャリスト輩出の今後が期待できます。

公益社団法人日本パブリックゴルフ協会 (PGS)

1962年の創立以来、パブリックコースから生涯スポーツであるゴルフの普及振興を事業目的に掲げているとブースで聞きました。PGSが推奨している「パブリックコース」のみならず、全日本決勝の舞台で行われる「メンバースhipコース」を会場とした、名門葛城ゴルフクラブ山名コースで「全日本スクランブル」を開催するなど柔軟な運営で、「全日本アマチュアゴルフフェーズ選手権」「全日本アマチュアゴルフフェーズ選手権」など、ユアゴルフフェーズ選手権」など、様々な競技をアマチュアゴルファーにプレーの機会を提供しています。

品 コロナ対策から生まれた新商品

初出展となる株式会社エス、テイ、オー(本社・静岡県)のブ



「Cup Keeper」(カップキーパー)

ースでは、ピンを挿したままカップインしたボールをピックアップしやすい「Cup Keeper」(カップキーパー)を展示。もともとは2019年に施行された新ルール(パットしたボールが挿したままの旗竿に当たっても無罰)に合わせて開発されたそうですが、新しいプレースタイルに合った商品とあって、私も興味津々でした。実際に取って試してみるとパターカバーに付けることが出来るので持ち運びも困りません。

神戸・兵庫ゴルフツーリズム協議会 / 三木市ゴルフ協会

日本のゴルフ発祥の地で歴史ある神戸と旅行をセットでご案内。神戸出身の私としては是非、六甲



タイ国政府観光庁のブースで東京事務所
のセークサン・スィープライワン所長と

山から始まったゴルフの歴史と一緒にご体験いただきたいです！三木市はゴルフ場がたくさんあります。さらに私も参加したことがありますが、豚饅サミットがあるのですが、南京町のグルメとゴルフ旅行をセットで組むのもおすすめです。

タイ国政府観光庁

タイ国政府観光庁「Tourism Authority of Thailand (TAT)」では、セークサン・スィープライワン所長がタイ語で『サワディーカップ』と出迎えて下さいました。私は『サワディーカー』の挨拶で東南アジアに想いを馳せることができました。

日本のゴルフのシーズンオフは、多くのプレーヤーがタイでゴ

ルフを楽しむためやトーナメントへ向けての調整をしに出かけるので、環境の素晴らしさを良く耳にします。

日本の寒い時期をタイの日差しの下で過ごしたゴルフアークからは日焼けとエネルギーシユなパワーを感じます。またタイといえばマングロー、ココナッツ、パイパイ、そして果実の女王と呼ばれ、世界三大美果の一つとされているマンゴスチンは必ず食べたい！楽しさや美味しさの魅力も兼ね備えた素晴らしいタイにも是非行ってみたいですよ。

N.S.PRO / 日本シャフト プロ担当三橋さんのお話

ブース内でのソーシャルディスタンスを保ち、情報の展示公開に工夫を凝らした「ぼね」の世界トップメーカーである日本シャフト。情報と感覚の擦り合わせが一番難しいといっても過言ではない、シャフトの世界です。

注目は特許技術で、カーボンの飛距離性能とやさしさ、スチールの打感とスピコンロール性能を融合させた「N.S.PRO MODUS3 HYBRID Graphite On Steel Techno

日本シャフトの話題の製品



Logo)です。高い次元で超軽量スチール本体とカーボン積層を一体化したのは技術の進歩は歴史から学んでもすごい事なのです。

ここで少し歴史を見直してみましよう。ヒッコリー(くるみの木)シャフトの時代からスチールシャフトが誕生したのは1912年。ヒッコリーに比べ約50グラムも軽量化され、クラブの性能が飛躍的に向上しました。『よく飛ぶ！』という理由から物議が起り、誕生から12年間使用禁止されたスチールシャフトの歴史があるのです。米国ゴルフ協会がスチールを正式に認定したのは1926年です。から、105年間の進化を遂げた重いシャフトの軽量化時代とカーボンシャフトの融合はまさに科学の進歩！興味が湧かないわけはありません。

とはいえ、実際は合う合わないについてはプレーヤーによる詳細な特徴や感触の確認も必要になってくるので「試打体験」で、経験豊富なプロ担当からの助言がもらえるのもフェアならではのですね！的確なアドバイスは質の高いフィッティングにマストなのです。

PINGプロ担当三橋さんのお話

フィッティングでは沢山の来場者がPING 425のドライバーを試打しており、洪野日向子プロの人氣がうかがえました。

PINGのブースで展示されていたババ・ワトソンのドライバーを手にとるとグリップの太さに驚きです。プロ担当の穂積さんに彼



PINGプロ担当の穂積真嗣さんと

のグリップについてお伺いしたところ『彼はミッドサイズ・グリップを使っています。このグリップは通常より既以太いですが、さらに特別なオーダーがあつて（彼は左打ち）左手の部分のテープを15巻き、右手の部分も13巻きにしています』とのこと。これには本当にびっくりしました。私はこのような希望を見たことも聞いたこともありません。そして、さらに驚いたのはパターのグリップが1巻きだったのです。物凄いギャップに、思わず笑つてしまいました。ババ・ワトソンの（テープの）太巻きグリップからはパワーを、そして1巻きのパターからはフィリングを求めていることが感じられます。圧倒的な個性でフィリングを持つているのはプレーヤーとしての強みです。メーカーさんはプレーヤーと一緒に取り組んだ工夫のケースを多く知っているのです。

ミズノ (MIZUNO)

ミズノの見所はなんといってもジャパンゴルフフェア初日に発売開始となった、高初速×低スピンの新作ドライバーつかまりの「ST1

×」と直進性の「ST2」です。やや高弾道でドロシーやすく「ST1×」では、ソールのトゥ部分に大きなカーボンパーツを配置。余剰重量をヒールバック部に配置し、重心距離を短めに設定する事によりヘッドを返しやすく、ボールがつかまりやすい作りとなっております。中段道のストレート系「ST2」はソールのトゥ・ヒール部分にもカーボンパーツを配置。余剰重量をバック部に配置し、重心深度を深く、慣性モーメントを拡大する事により、インパクト時のブレを抑え直進性を高めていました。

アイアンなど職人技術のイメージが強いミズノのギア効果の進化における慣性モーメントへの着手は、ブランド総合力の底上げを感じます。ドライバーの試打や簡易フィッティングの実施も大変充実していました。

一般社団法人日本プロドラコン協会 (JPD A)

ゴルフの魅力はなんといってもドラコンにあり!？と思わせる盛況ぶりだったのが、JPD Aのドラコンレッスンプラス。嘉数プロによると、1人10分程度のレッス



ドラコンブース、嘉数舞美プロのレッスン風景

ン予約は午前中ですぐ埋まり、キャンセル待ちも出る事態となったそうです。

『正直こんなに飛ばしに興味を持っていただけの思っていますでした。私たちの団体に興味を持っていただけてとても嬉しいです!びつくりしたのはアマチュアゴルファーのみならず、プロゴルファーも来てくれたことです。皆様の飛距離への意欲に本当に驚いています!』——そう話すJPD A公認・嘉数舞美ドラコンプロのレッスンでは、綱引きなどの例えから切り返しでの力を入れるポイントのコツを伝授されていました。飛ばしのヒントは力のメリハリにあるそうで、実際に私もレッスンを受け、10分程度のレクチャーで

ヘッドスピードが2・2m/sアップの41・0m/sを記録しました。このドリルは飛距離アップに繋がる万能薬のようです。日頃レッスンを活動をされている嘉数プロの今後の活動にも是非期待したいです。

また、SNSで著名人の来店ではレッスンと同時にインスタライブなど情報発信もあったそうで、人から人への口コミのあり方の形に進化を感じました。最後に彼女が手に付けている、キラキラしたリングが気になったので、質問したところ『コアフォース』という商品だと教えてくれました。

嘉数プロの様に300ヤード越えの飛距離を生み出すに欠かせないのには一つに身体能力の高さがあります。そんな身体能力を引き出すためのサポートをしてくれるのがCOREFORCE(コアフォース)です。疲労、姿勢、身体のトラップにも期待の持てるそんな夢のようアクセサリーだそうですが、ブースでは私の母校である滝川第二高校の後輩、古江彩佳プロが大きく展示されていました。古江プロからは「ゴルフは全身を使うので、体幹がしっかりするとブレが少な

い。コアフォースをつけるとスウィング時の体幹が安定するし、当たりが違ってくる」とコメントがありました。たしかに、コースは傾斜があるので、想像以上に体力を使います。信頼のおけるプレーヤーのコメントは商品の良さを物語っているのです。

EM・モウブレイスポーツ

ゴルフプレーの目的に合わせて、安定性はもちろん、地面反力を手にするためのサポートを施されたENERGYR（エナジーアルファ）の特徴は足裏のアーチに対してのアプローチへの形状。そしてなんととってもこのインソールは程よく柔らかいのです。それから春へ向けて、優れた抗菌力で臭い菌を99%除菌してくれることも購買意欲をそそる要素になっています。ゴルフフェアで見つけたゴルフプレーを楽しむ為のおすすりサポート商品ですが、実は私も隠れユーザーの一人なのです！

crazy (クレイジー)

過去に世界一のドライビングデビュースタンスを記録させた実績を持つクレイジーシャフト。挙動のブ



クレイジーの白石哲也さん

レを徹底管理された信頼のおけるクレイジーシャフトではグループ会社とのコラボでダイヤモンド(宝石)や美容商品も展示されていました。ゴルフに欠かせない美容商品のご提案がまぶしいブースです！ゴルフに対する美徳を総出で感じることが出来るクレイジーワールドでした。

有賀園

頭から指の先、足の先、クラブに至るまでゴルフの総合取扱店である有賀園では商品のセール販売を行っていました。品揃えの数に目移りしてしまいます。その場で商品が決まらなかつた私は有賀園ゴルフオンラインに登録をすることして、次回の割引券をゲット。し

かも、参加賞のぐんまちゃんタオルまでダブルゲット！テンションが一気に上がります。なんて楽しいのだろう。そんな楽しみ方ができるのもきっとフェアならではのですね。

ゴルフフェアの醍醐味

サポートや経験を積んだスペシャリストと直接コミュニケーションを取れた贅沢なひとときとなりました。ゴルフフェアはメーカーからアパレル、旅行代理店と様々なゴルフのプロフェッショナルが集まる貴重な3日間です。出展数は減ってもクオリティの高さを感じました。来年の開催も楽しみです♪

——大谷奈千代プロの体験記の後は、ジャパンゴルフフェア開催期間中に実施されていたオンラインセミナーについて触れていきたい。



市場活性化セミナーはGMACのHPから視聴可能

テーマは、ゴルフのワクワクを健康経営の視点で、市場活性化セミナー(GMAC)

ゴルフ市場活性化委員会(GMAC)が主催のオンラインセミナーは、3月12日に開催された。

第1部では、特定非営利活動法人・健康経営研究会の平野治副理事長による「健康経営市場の創出にむけて」(ゴルフ界も健康経営時代を迎える)と題した基調講演が行われた。

第2部では、ゴルフ場、用品、練習場の若手経営者と平野氏を交え「ポストコロナのゴルフ界」が社会にとって有意義な存在になるための方策のディスカッションが行われた。進行は片山哲郎氏(GMAC企業連携・交流部会長)、参加者は第1部で講演した平野治氏(健康経営研究会副理事長)と、有賀史剛氏(有賀園ゴルフ社長)、小林忠広氏(セブンハンドレットクラブ社長)、磯崎博文氏(ウイルトラスト社長)の5名であった。第1部、2部ともにGMACのHPから視聴することができる。パネルディスカッションに参加

したセブンハンドレッドクラブ（18日、栃木）の小林忠広社長にGMACセミナーについて感想を聞いたので紹介したい。

「今回のGMACセミナーで私が登壇者になったのは、GEWの片山さんからメディアインタビュウを受けた際に、新しいゴルフ場の在り方として好感を持っていただいたことがきっかけでした。

GMACセミナー、ポストコロナのゴルフ界”についてですが、コロナによるゴルフ好況は世界で同時に起きていますが、日本のゴルフ界はあくまで受け身によって好況になったと思っています。自分たちが仕掛けた好況ではない。そのため、このような多様なステークホルダー／関係各位が集まってコロナ禍の分析を伴いながら話す会には非常に意義があると感じました。

練習用品を購入し（有賀さん）、練習場で腕を磨き（磯崎さん）、ゴルフ場でラウンドをする（小林）という入口から出口までの関係各位が揃って、同じ議題をディスカッションできた意義は大きく、自分としても大変勉強になりました。ただ、話し合う中で改めて感じ

たのは、これらのゴルフファーが個々にそれぞれの舞台で踊るのではなく、手を取り合って共にゴルフアーを育てていくという視点が欠けていたこと。どの関係者も単体ではゴルフアーを増やす／ゴルフ離れを止めることはできないのに、画期的な連携がないということを感じました。業界としてのビジョンを明確にし、ユーザー目線のゴルフアー人口を増やすための連携強化が必須だと思います。

やはりビジョンが大切です。サッカー協会は、2050年までにワールドカップ優勝とサッカーファミリー1000万人」という明確なビジョンがあります。良いか悪いかは人それぞれ思うところがあると思いますが、指針となるビジョンを掲げなければ、まとまるものもまとまらなさと感じました。

最後になりますが、私が経営するセブンハンドレッドクラブは単一コースであり、グループではありません。だからこそ、ゴルフ場の業界では起きてない新しい潮流を巻き起こしていきたいです。ゴルフ場の文化を変える存在…フラッグシップモデルとして取り組みを広げていきます。ゴルフ場が地

域にあることで、魅力発信の源となり、産業を創る拠点として活用されるための取り組みを引き続き仕掛けていきたいと考えています。ラグビーのOne for all, all for oneの精神に則り、地域はもちろん、異業種との様々な連携を通して、ゴルフ業界に新風を巻き起こし続けます！」

JGRAビジネスセミナー 厳しい将来を生き残るために 求められる経営の基本を知る

全日本ゴルフ練習場連盟（JGRA）が主催のオンラインセミナーは、3月12日に開催された。ゴルフ関連団体が主催するセミナーの中では唯一の有料のセミナーとなったこともあり、注目度の高いセミナーとなった。

開会宣言として、冒頭にJGR



JGRAビジネスセミナーで話す横山雅也会長

Aの横山雅也会長より、開会に向けてのコメントが述べられた。「開催が危ぶまれたジャパンゴルフフェアであったが、初めてのオンラインでの開催ができたことはアプターコロナを見据えても変化の機会と捉え、良いことだと思っっている。コロナが発生した当初は情報も錯綜し、対応に大変な状況になったが、練習場連盟として感染対策のガイドラインを発表し、それを全国の各練習場が実施をしたことで、閉鎖や休業もなく運営できたことは大変よかつたと思っっている。幸いにもコロナ禍において練習場は全国平均で前年比10%以上の来場者数を記録しており、これまでとは違った若者ゴルフアーなどの新規ゴルフアーが新たに入場者に加わっている現状がある。しかしながらコロナ後にもこのトレンドが継続するかどうかは、ゴルフ練習場の経営努力にかかっている。コロナ禍と後を見据えた経営の在り方、次世代を見据えた経営を推進していくためにも、全日本ゴルフ練習場連盟として全国の施設に有意義な情報やリソースを提供していきたい」とのコメントがあった。

次いで経営セミナーが開催され、講師で株式会社MATコンサルティングの代表取締役社長である望月博愛氏より「魅力ある組織づくりに向けて、従業員のモチベーションを高める」というテーマで講演。望月氏はレストラン経営を任され経営者としてわずか1年で4億円から14億円に売上を上げるも、その後取締役を解任され、10億円以上もの個人保証により借金を背負わされる状態で社長に復帰し、事業の再建を果たした名経営者。その実績が認められ、2005年に経営品質賞を受賞したことを機に、当時の経営改革の実例をもとに、「卓越した業績を上げ続ける企業に共通する経営の仕組み」というテーマでコンサルティングや講師を行っている。今回のセミナーでも「経営の仕組みづくり」が紹介された。サマリーは以下の通り。

- ①リーダーシップ、②社会的責任、③戦略の策定と展開のプロセス、④組織能力、⑤顧客、市場の理解のプロセス、⑥顧客創造のプロセス、⑦活動結果、⑧学習する組織のためのプロセス

従業員のエンゲージメントにつ

いての課題が取りだたされる現代経営において、その実例を紹介しながらの講話はゴルフ練習場のみならず、ゴルフ産業全体において注目のテーマとなったのではないだろうか。

なお、セミナーの最後にはJGRAから全国のゴルフ練習場の中から経営改革やサービスの提供を通じて、社会に影響を与えた企業の表彰が行われ、最優秀賞には経営部門（ゴルフ練習場における産学協定）でエントリーした株式会社カゴハラゴルフ（埼玉県）が輝いた。

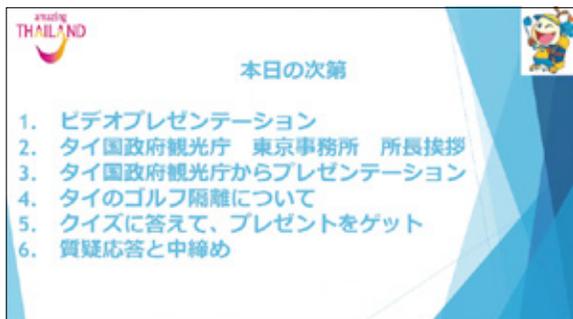
ゴルフジャーナリストが見た聞いた、コロナ禍この1年取材裏話

3月12日に、「ゴルフジャーナリストが見た聞いた、コロナ禍この1年取材裏話」（主催・日本ゴルフジャーナリスト協会）がオンラインにて開催された。

セミナーの内容はゴルフ施設の臨時休業、トーナメントの自粛、東京オリンピックの開催延期、メディアの偏向報道などについて検証し、JGJA会長の小川朗氏が各パネラーに質問しながら、これ

からの取材やゴルフ業界について考えるというものであった。

冒頭は、大泉英子氏（ゴルフグロバル編集長）が現在のハワイ州、ヨーロッパ、アジアツアーなどのトーナメント事情、取材においての各地域のツアー選手と取れる距離感の違い、海外の注目選手・メジャー大会での日本選手の活躍の力、今年の抱負などについて語り、赤坂厚氏（スポーツライター）、浦東大人氏（日米ゴルフ研究所代表）、遠藤淳子氏（スポーツライター）は昨年の日本ト



出展者で唯一、オンラインセミナーを開催したタイ国政府観光庁

ナメント開催自粛やメディアの偏向報道について分析し、本来のトーナメントの在り方、ジュニアゴルファーの育成、ゴルフ場（練習場）のオペレーション、メディアの報道の在り方などについて徹底討論された。

セミナー全体を通して各パネラーが生涯スポーツとしてジュニアや高齢者のゴルファーを沢山育てられるプログラムの推奨や日本ツアー発展の問題点、改善点が飛び交うなどゴルフ業界全体を活性化していくというジャーナリストのゴルフと取材に対するの熱意が伝わる内容だった。

その他のセミナーとして「ゴルフツアーアスロンという新競技がもたらすもの」（主催・日本ゴルフツアーアスロン協会、3月13日に開催）、「大学ゴルフ授業シンポジウム2021」（主催・大学ゴルフ授業研究会、3月14日に開催）等も開催された。また、出展者で唯一、タイ国政府観光庁が「タイゴルフの魅力と現状について」と題したオンラインセミナーを3月14日に開催した。セミナーではアンケート機能を活用し、全員参加型で実施し非常に好評だった。